

ふくろう新聞

<発行>
 特別養護老人ホーム 郷会
 淡路ふくろうの報 委員
 洲本市中川原町中川原 28 番地 1
 TEL: 0799-25-8550
 FAX: 0799-25-8551
 ホームページ
<http://hyoufuku.main.jp/fukurou/>

ふくろうまなびあい文庫⑤となる『勝楽進・佐代子の人生から学ぶ奪われたものとその回復を助けたもの』が全国ろうあ者大会と併せて、いよいよ発刊です。この新聞の一面にもありますが、国の政策で行われた不妊手術の話です。ぜひお読みください。

夏野菜の植え付け

ふくろう畑数年ぶり再開

職員からの「野菜を作ってお年寄りに楽しんでほしい」との発案で、「ふくろう工房」として取り組むこととなりました。宿直の網谷さんの紹介で農家顔負けのボランティア、立花さんの指導のもと、トマトやスイカなど7種類の夏野菜の植え付け、柵作りなどに汗を流しました。収穫物は入居者に食べていただくのももちろんですが、見学者やイベント時に販売し、年度末の入居者の給料として繋がれば・・・と夢は膨らみます。

断種手術の取材相次ぐ

取材に答える勝楽佐代子さん



知らない間に断種手術を施された夫

最近、新聞やテレビを賑わせている旧優生保護法の下で行われた不妊手術の問題を巡って、NHKが取材にやってきました。勝楽佐代子さんに会うためです。勝楽さんは2012年に自分史を出版されています。そのことを知ったテレビ局や新聞社から、取材の申込みがあるのです。昭和35年ごろ、勝楽佐代子さんと夫、進さん（2015年没）は、結婚したいとお互いの親に伝えると、佐代子さんは母親に連れられて、進さんは弟を通じて父親に命じられて、共に病院に行きます。佐代子さんは「子どもが二人ほしい」と告げると母親は黙って佐代子さんを連れ帰りますが、進さんは病院に着くと看護師に手足を押さえつけられ、断種手術を施されました。

厳しかった当時の現実と難航する取材

テレビ局や新聞社の方には、勝楽さん世代の聴覚障害者はきちんとした教育を受けられなかったことや、当時の社会的地位など厳しかった生活の現実がなかなか伝わっていません。「当初二人生みたかった気持ちは、今はどうですか」と聞いても、記者が想像している答えが返ってきません。さらに50年以上の月日が経過しており、記憶もあいまいです。取材は簡単には進みません。進さんが受けた断種手術。優生保護法という法律の問題だけでなく、その背景にある「障害者は劣っている。役に立たない」といった優性思想が露骨に示されます。勝楽さんは取材中に何度も、「仕方ない」と繰り返しました。それを見るたびに胸が締め付けられる思いがしました。

(事務長・橋詰恭子)



▲入居者に楽しんでほしい、と作業するボランティア

ふくろう物語

山岡省二さん

山岡さんは愛媛県今治市出身で、昭和20年7月16日生まれの73歳です。愛媛県立松山聾学校高等部を卒業後、1967(昭和42)年頃、大阪で木工関係の仕事に就きましたが、聞こえないことから周りの意思疎通が難しくトラブルになり2年程で退職されました。

それからは職を転々としますが周囲とトラブルが続き、社会生活も難しいとみなされ23歳頃、精神科に入院しそれから50年もの間、病院で過ごされます。入院生活では手話のわかる人が居なかった為、気持ちを理解してもらえず心を閉ざし、ほとんどの時間を1人で過ごされてきました。

運命の出会い

そんな山岡さんの様子を見て、以前通りの患者と関わつ



▲富永さんと団欒する山岡さん (左)

た経験を持つ病院長が、愛媛県聴覚障害者協会に相談し、手話通訳者と共に手話で話しかけました。しかし長い間、閉ざされた山岡さんの心は開きませんでした。その後、愛媛ろうあ協会から淡路ふくろうの郷へ相談の連絡が入ります。

事情を聞いた大矢理事長が入院先を訪ね、院長と面談の上、バリデーションを活用した手話での話しかけに、山岡さんは一時間近くも独自の手の動きや身振りで話し続けられました。その場に居合わせた方は今でも「あの時は本当にびっくりした」と話すほどです。

穏やかな時間

その後、相談を重ね平成29年9月22日、ふくろうの郷に入居されました。

遠く離れた地で、しかも長い入院生活です。馴染めるのかどうか不安でしたが、入居者同士が手話で話しているのを見て山岡さんが「あの人は」ろう者か?」と聞かれたため「そうですよ」と伝えると「OK!」と笑顔で言い、入居を喜ばれました。仲間に会えて嬉しいという気持ちが、垣間見られた瞬間でした。

入居当初は、慣れない環境に戸惑う様子もみられました。山岡さんの独自の手の動きを理解してもらえないもどかしさからイライラすることもありました。しかし時間を重ねていくことで表情も和らぎ、料理講座などふくろう大学にも参加し、入居者や職員とコミュニケーションを楽しめるまでになってきました。



中川原小学校 運動会に参加しました



5月19日に中川原小学校で運動会が開催されふくろうの郷も参加させていただきました。

応援だけでなく子ども達と一緒に玉入れに挑戦しました!
(上) 北宿一好さん
(右) 広島彰さん



同じユニットの富永さんとは特に中がよく、いつも2人で座り終始笑顔でうなづきあっています。手話での会話はあまりありませんが通じるものがあるようで、お互いに安心感を抱いています。

より豊かな生活に向けて

現在、山岡さんの人生を辿ること、今後の介護実践を記録したいと取り組んでいます。

い頃にどんな人生を歩まれたのか分からないことが多くあります。山岡さんのこれからの人生をどう豊かにし、楽しんでいただくのか、同郷の人たちとの再会・交流なども計画し、今以上に良い支援に繋がっていきたいと思います。
(生活援助員 山田繁和)

淡路ふくろうの郷家族の会 新体制でスタート

5月26日に第23回家族の会が開催され、6家族11名に出席いただきました。

今年度4月から介護保険の改定があり、基本報酬や2人配置した場合に障害者生活支援体制加算が引き上げられました。施設としては収入増ですが、加算分の一部が入居者の負担に加わって負担増になることを説明しました。

また、6月17日の初夏祭りも、家族の会の事業として模擬店の販売に取り組んでいただくことになりました。また9月には、新しい取り組みとして介護等についての学習会の開催についても意見交換しました。

退会された方から家族の会への寄付をいただきましたが、使途について、家族の会の運営費に入れるのではなく、記念に残るようなものを買ってはどうかと提案がされました。

新役員での年度スタートした家族の会、ふくろうの郷の運営をよくしたいとの思いが

6月3日(日)今年も神戸から楠公連の方21名に訪問いただき、阿波おどりを披露していただきました。子どもと大人で演じる「連だこ」に感動した初田さんは「もう一回やって」と要望。盲ろうの方も太鼓をたたき振動を楽しんでいました。最後はみんな一緒に踊り、入居者は「とても楽しかった～」と大盛り上がりでの時間でした。

**楠公連さん、楽しいひと時
ありがとうございました。**



伝わる会でした。
(相談主任 竹原 哲章)

手話ができない・分からない中での実習で、聞こえない人が日常的に社会で感じている疎外感やもどかしさを身をもって実感した。ここでの学びを看護師になった時に活かしていきたい!

「1人1人に向き合う」 学びを活かして

関西看護医療大学生4回生8人
4日間の実習を終えての感想



見えない・聞こえないの壁を作らない様、その人らしさを引き出す介護に素晴らしさを感じた!

聴覚障害といっても程度はさまざまで、一人ひとりに合わせたコミュニケーションが大切だと感じました。

平成29年度を振り返って ～法人理事会～

5月26日(土)第86回理事会が開催されました。主な議題は平成29年度の事業報告、決算の承認です。事業報告では理事長と二人の業務執行理事からそれぞれ担当事業について報告がされ、理事からの質問については主任が答えるといったスタイルで進みました。事業報告では、ふくろうの郷の短期入所事業の再開とその関連で人材確保などについて、中川原ふれあいセンターでは地域活性化の取り組みでフリーマーケットを行ったこと、神戸事業所では新長田に土地を購入、施設建設に向けての取り組みなどが報告されました。理事からは公益社団法人兵庫県聴覚障害者協会と当法人で進めている「困っている聴覚障害者の掘り起こし」の詳細説明、また臨床心理士との関わりを深めてほしいとか、淡路聴覚障害者センターのろう相談員の実績をもっと広げてほしいなどといった希望が出されました。

決算報告では、短期入所事業再開に向けて人材確保に努めた結果、人件費率が昨年度は61%であったのが、71%にまで上がったことなどが報告されました。また昨年11月に県の法人指導課の監査を受け、その改善に向けての審議がされ、全議案が承認されました。

6月17日には評議員会が開催されます。法人の執行部たる理事の動きが評価されます。

(法人事務局長 橋詰恭子)

淡路聴覚障害者
センター便り

洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館 3階

糖尿病を考える 体験を聞きながら

5月20日『糖尿病』をテーマに社会生活教室を開催しました。手話で解説しているDVDを見ながら、糖尿病の怖さや、日常生活での注意点を学びました。30名の参加者に、アドバイザーとしてふくろうの郷の看護師の渋谷裕子主任から、疑問や不安に的確な助言をして頂きました。



▲糖尿病の怖さや予防について真剣に聞く参加者のみなさん



▲糖尿病の怖さを持参した検査器具を使って話す西田晃美さん

血糖値は食後1時間ほどで上がり、その時に合わせて有酸素運動をすると良いとお話があり、「これまでおいしく食事を摂るために食前にウォーキングをしていたが、食後の運動が血糖値と関係することを初めて知った」と参加者の榎本美恵子さん。

《自身をふりかえる》

後半では、今も糖尿病の治療を続けている西田晃美さんの体験発表です。実際に使っているインスリン、血糖値測定器を持つ参され、また歯が抜けたりすることなどが糖尿病と関係する点などこれまでの経験をお話しいただきました。当事者の話を聞くことで、病気がより身近なものになったようで「次回の

受診の時には、血液検査の数値をきちんと把握して、今後の治療に繋がりたい」と参加者。

《まずは食生活から》

昼食は糖尿病食（530キロカロリー）を準備し日頃の食事と比べて頂きました。十分満足できた・醤油をかけたい・おかわりが欲しい等の意見が出されました。糖尿病は予防できると分かったので、自分でできることをやってみようという参加者の感想です。今後も、自分の身体を見直す学習会を開催したいと思えます。

(センター職員 岡本久子)

バランスよく食べよう!

20分以上の有酸素運動

▲準備された糖尿病食

◆毎週木曜日は手話の日◆

手話奉仕員養成講座が始まりました

短期・長期コース(昼・夜)が開講しました。今年度は手話言語条例が広まる中、市職員の方も積極的に受講されています。手話習得とともに、聴覚障害者への理解も深められるよう学習していきます。

表情を工夫することの大切さを学びました。

窓口業務で少しでも役に立てるよう、相手の気持ちを考えて、手話も楽しく覚えたいです。

手話を使われる方が来られた時、コミュニケーションが取れるように頑張って学びたいです。

受講生の 意気込み

簡単な会話を、手話で出来たらと思います。

手話を学び、まわりの人にも伝えていければと思います。

表情豊かに意思伝達できるようになりたいです。



▲楽しく始まった講座に意欲的な受講生



予告 わくわく フリーマーケット in 中川原
第5回

日時:2018年7月22日(日) 10時~15時
場所:中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター

出店内容や詳細は、別紙のチラシやふれあいだよりでご案内いたします。
 お子様向けのゲームなど家族で楽しめるも企画中ですので、是非お越し下さい。

**中川原高齢者・障がい者地域
ふれあいセンター**



☎656-0002
 兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2
 TEL 0799-28-0990
 FAX 0799-28-0992



▲絵手紙作りを楽しむ太田節子さん(左)

この4月から、ご利用を始めた太田節子さん。お若い頃は、営業のお仕事で奔走されていたとのこと。この度、ご縁があり桜が丘に来て下さることになりました。「こんなんしたことない！」とデイサービスをご利用くださった日は、お喋りや創作活動楽しんでいただいています。先日はそら豆の絵手紙作りを楽しみました。



▲「椿葉の中心にかわいい「ハートマーク」!

デイサービスの窓から見える庭で、珍しい葉っぱを見つけました。薄クリーム色の葉の中心には、かわいいピンク色の「ハートマーク」模様。先日、洲本市社会福祉協議会とともに「縁むすみプロジェクト」が、中川原ふれあいセンターで開かれ、カップルが多数誕生したとお聞きしました。これからも良いご縁がありますように。(管理者 竹内美菜子)

**幸せなご縁が
ありますように**

**デイサービスセンター
桜が丘の日々の様子**

**そら豆の絵手紙
つくりました**



▲完成した絵手紙。画面いっぱいのソラマメ。楽しそうに踊っているようです

**第2弾 おのころ農園
特産淡路玉ねぎ(ターザン)生産直売!**

玉ねぎ小屋で自然の風を利用してゆっくりと乾燥される玉ねぎ。淡路島は日照時間が長く、潮風の運ぶミネラルが最高の甘みを引き出します。美味しい「ターザン」をお届けします。

1箱 5kg入 1,200円/送料 830円
1箱 10kg入 2,000円/送料 1,090円

(全国発送いたします、※但し北海道・東京・沖縄は別料金に。)

※申込期間:平成30年6月~7月上旬

○連絡先:おのころの家

TEL 0799-28-0995
FAX 0799-28-0992

おのころの家



暮らしを考える利用者会議を目指して

5月23日(水)午後1時から、おのころの家利用者会議を実施しました。通所者のみなさん、要望・意見を出し合い、進めています。

- ① 倉本史子さん、玉ねぎ切りを頑張るので、その分のお金はもらえますか?
- ② 山野信彦さん、工賃をあげてほしい。1万円アップしてほしい。
- ③ 赤井良次さん、自分の車で来ているのでガソリン代はもらえるのか?

多くの人の意見が出せお互いを理解し、ともに暮らしを豊かにして行けるように、頑張っています。

おのころの家所長
橋詰 一則



神戸事業所 安心して暮らせる
福祉施設を!!

共同作業所 神戸ろうあハウス

神戸ろうあハウス デーサービスセンター

〒652-0897 兵庫県神戸市兵庫区駅南通5-4 西高架下16号
TEL & FAX ... 〇七八・五七九〇七五五

手話の会話で

盛り上がってます

「手話カフェ」



接客を頑張るなかま達

今年の1月から、ひようご聴障ネットより運営を引き継ぎ、毎月第三水曜日に手話カフェを開いています。今までのお客様に加え、利用者の家族や、ガイドヘルパーさんなど、たくさんの方々にご来店していただいています。

利用者の仕事は、前日にカレーやおでん、デザートの下準備では、材料の大きさや形を揃えて切るが大変です。今後は調理まで担っていただけるように頑張っています。また、当日は、お客様が来店してからの注文、料理運び、会計とた

くさんの手順を覚え、地元の手話サークルのボランティアさんたちに手伝ってもらいながら、接客をしています。

4月、5月は担当職員が新メニューのいちご大福に挑戦し、好評でした。これからも季節にあわせて工夫していこうと思います。利用者発案のメニューづくりや作業への取り組み、またお客様に満足していただき、再度来店していただく課題はあります。

お客様は、ろう者や、手話サークル、今、手話を勉強中の方など様々です。みなさん、楽しそうに会話され、長時間滞在の方が多くいますが、込み合ってくるとう席を譲ってくれたりといういろいろ気を使ってくれる方もいて、アットホームな雰囲気です。ひようご聴障ネットの10年の重みを感じながら、これからも心地よいコミュニケーションの場を作っていきたいと思っています。

(野村 洋子)

「聲の形」上映会決定!

建設推進委員会として、チャリティー上映会が決まりました。各地域で「卒業〜スタートライン〜」の上映会が続く中、並行して委員会のイベントも計画されています。手話関係者だけでなく、広く一般の人への啓発に繋がればと思います。

「聲の形」

2018. 8. 4 (土)

朝 10:30~12:40

昼 13:30~15:40

◆神戸市立婦人会館

夜 18:00~20:10

◆新長田勤労市民センター

チケット 大人 1500円

18才未満 1000円

神戸施設建設をめざして

2018.4.27現在 募金合計額

44,248,807円

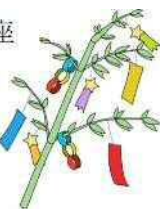
(プレート募金60)

目標1億円まで、あと

55,751,193円

6月・7月 ふくろうの暮らし

- 6/17 (日) ふくろう初夏まつり
- 6/19 (火) 入居者自治会懇談会
ふくろう大学絵手紙講座
おのころ屋パン販売
- 6/20 (水) ふくろう喫茶
- 6/22 (金) ふくろう大学料理講座
- 6/29 (金) 入居者健康診断
手話サークルあわじ交流
- 7/2 (月) ふくろう理髪店
おのころ屋パン販売
- 7/7 (土) 流しソーメン
地域交流会手話講座
- 7/10 (火) ふくろう大学書道講座
- 7/20 (金) ふくろう工房ちぎり絵



ふくろうの郷見学・実習・出前講座予定

- 6/23 (土) 大阪市東住吉区 宇戸多美子様 6名
- 7/1 (日) 奈良県御所市聴力障害者協会様 15名
- 7/7 (土) 手話奉仕員養成講座施設見学研 22名
- 6/18~6/30 神戸聴覚特別支援学校実習受入 1名
- 6/20 (水) 県立洲本高校人権講座 (洲本市)

ふくろうの郷見学者感想

・聴覚障害に配慮した老人ホームとはどんなものか半信半疑で来たが、入居者の人生を知り驚くと共に、素晴らしい取り組みをされており、感動した。
・近所にろう夫婦が住んでいる。ろう者に配慮のある施設があるのを知らなかった。近い内に一緒に訪問したい。(5/28 訪問 加古川市民生委員協議会)